

# Mémoire 2024

## 第44回 ジャパンカップ (GI)



## 日本が誇る現役最強馬 ドウデュース

海外の強豪を迎え撃った日本の総大将が、驚異の末脚で快勝した。アイルランドからは英愛ダービーなどG1・6勝のディープインパクト産駒オーギュストロダン。フランスからはキングジョージVI世&クイーンエリザベスSを完勝のゴリアット。ドイツからは独ダービー、バーデン大賞を勝ったファンタスティックムーン。2024年ジャパンCは、世界のビッグネームの参戦に大いに沸いた一戦となった。

確たる逃げ馬が不在の中、まず先頭に立ったのは愛チャンピオンS 3着、凱旋門賞12着と転戦してきた3歳馬シンエンペラー。向正面に入ると、8月の英インターナショナルS5着以来のドウレッツァが交わして逃げる形となる。1,000m通過は62秒2。スローとなったレースは、そのまま淡々と流れて3コーナーから4コーナーへ。ここで動き出したのが、1番人気のドウデュースだった。

前走の天皇賞(秋)と同様、スタートしてすぐ最後方近くまで下がって追走していたドウデュースだったが、3、4コーナーの中間でエンジンに点火すると、瞬間に大外から上昇。直線、チェルヴィニアやスターズオンアースを交わすと、さらに加速。残り200mで先頭のドウレッツァ

を捉え、馬体を併せてクビ差ほど前に出たら、あとはもうその差が縮まることはなかった。上がり3ハロンは32秒7(推定)。まさに異次元の末脚だった。

スパートが早かった分、「並の馬なら最後にバテる展開ですが、この馬ならと思って乗っていました」と愛馬を称えた武豊騎手。友道康夫調教師は「フランス、ドバイと外国では悔しい思いをしていたので、日本では負けられない気持ちでした。世界の皆さんに本当のドウデュースを見せられてよかったです」と胸を張った。まさに日本の現役最強馬が、その強さを世界に見せつけたレースとなった。

### 第44回ジャパンカップ (GI)

11/24 東京競馬場 2,400m(芝・左) 晴・良 14頭

| 着順 | 馬名        | 性別 | 年齢 | 斤量 | 騎手名     | 調教師名  | タイム/着差 | 人気 | 通過順位 |
|----|-----------|----|----|----|---------|-------|--------|----|------|
| 1  | ドウデュース    | 牡  | 5  | 58 | 武 豊     | 友道 康夫 | 2:25.5 | ①  | ⑬⑫⑪⑦ |
| 2  | シンエンペラー   | 牡  | 3  | 56 | 坂井 瑠星   | 矢作 芳人 | クビ     | ⑧  | ①①②② |
| 2  | ドウレッツァ    | 牡  | 4  | 58 | W.ビュイック | 尾関 知人 | 同着     | ⑦  | ⑥③①① |
| 4  | チェルヴィニア   | 牝  | 3  | 54 | C.ルメール  | 木村 哲也 | 2 1/2  | ②  | ③③⑥④ |
| 5  | ジャスティンパレス | 牡  | 5  | 58 | C.デムーロ  | 杉山 晴紀 | アタマ    | ③  | ⑦⑦⑦⑦ |

ドウデュース  
栄光の蹄跡

3

ハーツクライ  
**ドウデュース** 1221  
ダストアンドダイヤモンド(Vindication)  
2019.5.7 生 安平・ノーザンファーム



牡5  
鹿

58

武 豊

(株)キープアース

友道 康夫(栗東)

2024.10.27 東京  
天皇賞(秋) G I  
15ト 2人 1(122)  
58<sup>+</sup>。 武 豊  
芝2000良 1:57.3

2024.6.23 京都  
宝塚記念 G I  
13ト 1人 6(111)  
58<sup>+</sup>。 武 豊  
芝2200重 2:12.9

2024.3.30 ドバイ  
ドバイターフ G I  
16ト — 5(115)  
57<sup>+</sup>。 武 豊  
芝1800良 1:46.2